

Title	語文 第112輯 編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 112
Issue Date	2019-06-30
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77211
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

元号が「令和」とあらたまつてはじめての刊行となる『語文』をお届けします。

今号は、信多純一先生の追悼を特集し、五人の方に追悼文を書いていただきました。どの文章も信多先生の学問とお人柄を的確に語っておられ、胸に迫りました。信多先生が、私たちの学会に遺された教えを心に刻んで、今後とも歩んで参りたいと思います。

論文は堤和博氏にご寄稿いただいたほか、金水教授および大学院生三名の計五本。これに加えて、尾崎千佳・米田真理子両氏のご尽力による島津忠夫先生の著述目録補訂と、最近の学会員の著書四篇の紹介を掲載いたしました。

さて、平成の終焉と時をほぼ同じくして、加藤洋介教授・山本嘉孝講師が転出されました。新天地でのご活躍をお祈りいたします。残された日本文学のスタッフは三人で四苦八苦しながら、必死にやっておりますが、新しい教員の一日も早い着任を心待ちにしています。

学問研究をとりまく状況は、ますます変化のスピードを増しています。人文学の危機が叫ばれる中、どのように研究教育を進めていくのか、問い続ける日々が続きます。学会で根本的な議論を試みることも必要かもしれないと、このごろ考えることもあります。

(飯倉)

語文 第百十二輯

令和元二〇一九年六月二十五日 印刷

令和元二〇一九年六月三十日 発行

編集・
発行者

大阪大学国語国文学会

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町一―五

大阪大学大学院文学研究科

日本文学・国語学研究室

代表 金水敏

振替口座〇〇九四〇―四―二四六四一

電話 〇六―六八五〇―五一一一

印刷 能登印刷株式会社